

校内研修・OJTの活性化（Q&A）【2】

「校内研修の活性化」とは、**校長のリーダーシップ**の下、各学校の**教育的課題**に対応した**協働的な学び**を**学校組織全体**で行い、その成果を**教職員間で共有**することにより、**学校の組織力**が高まり、**効果的な学校教育活動**が実施されている状態です。

Q1 各学校の教育的課題とは例えばどんなこと？

学校を取り巻く状況については、次のようなことがあげられます。

【教職に必要な素養】

- 学校安全への対応
- 幼児教育と小学校教育の接続
- 小中一貫教育及び中高一貫教育等の学校段階間接続等への対応
- 保護者や地域との連携・協働体制の構築

【学習指導】

- 小学校における外国語教育
- STEAM教育等の教科等横断的な学習の推進
- 個別最適な学びと協働的な学びの一体的な充実
- 主体的・対話的で深い学びの実現に向けた授業改善

【生徒指導】

- 進路指導及びキャリア教育への対応
- いじめ・不登校などの生徒指導上の課題への対応
- 貧困・虐待などの課題を抱えた家庭の児童生徒等への対応
- 道德教育の充実

【特別な配慮や支援を必要とする児童生徒への対応】

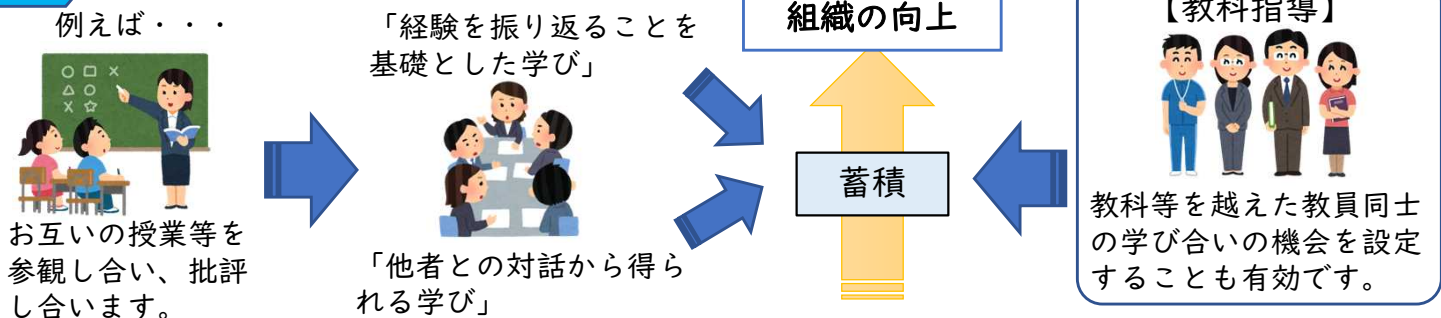
- 外国人児童生徒等への対応
- インクルーシブ教育システムの理念を踏まえた発達障がいのある児童生徒等を含む特別な支援を必要とする児童生徒等への対応

【ICTや情報・教育データの利活用】

- 一人一台端末環境を前提としたICT・教育データ利活用

変化し続ける社会や学校現場からの要請に的確に応えられるよう、これらの変化に対応した教員の資質能力の向上が求められています。

Q2 協働的な学びを学校組織全体で行うとは？



Q3 効果的・効率的な実施方法とは？

研修の内容・態様に応じて、これらの方法を適切に組み合わせます。

対面・集合型で行われるもの

同時双方向型のオンライン

オンデマンド型のオンライン

多様な機関が研修コンテンツを作成しているので、効果的に活用することで、個別最適な学びの実現へとつながります。

- 教育委員会 ○独立行政法人教職員支援機構
- 大学・教職大学院 ○民間企業等

Q4 本年度（令和4年度）中にしておくことは？

★次年度の校内研修計画を作成※する。

例：年7回

- ①コミュニケーション能力研修（5月）
- ②ICT活用研修（7月）
- ③コンプライアンス研修（8月）
- ④特別支援研修（9月）
- ⑤⑥授業研究会（6・11月）
- ⑦いじめ不登校対策研修（1月）

★活用可能な各機関の研修コンテンツの事前調査を行う。

参照例：独立行政法人教職員支援機構「校内研修シリーズ」

<https://www.nits.go.jp/materials/intramural/>

：独立行政法人教職員支援機構「新たな教師の学びのための検索システム」

<https://kensaku.nits.go.jp/>

：宮崎県教育研修センターチャンネル - YouTube

<https://www.youtube.com/@user-ud5jp7mu5o/videos>

★各学校の実状に合わせて、研修に関する中核的な役割を担う職員を明確にして、研修環境を整える。（研修主任等を位置付けることも可）

※校内研修が計画的に行われていない学校は、必ず校内研修を位置付けます。

既に学校の教育的課題に向けた研修が行われている学校では、継続して組織的・計画的に校内研修の活性化を図っていきます。

